

---

# リサイクルおばあちゃん。

国後旺

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リサイクルおばあちゃん。

### 【Nコード】

N7213E

### 【作者名】

国後旺

### 【あらすじ】

今年で八十二歳になる寿子（としこ）は、バスの中で痴漢に遭う。その痴漢は寿子の臀部を鷲掴みにしながらこう言った。「若返らせようか」と。この作品は、一部老人を虐待する描写を含みます。苦手な方はご注意ください。また、一部に性描写も含みます。苦手な方はご注意ください（R-15：SFホラー）

ある日のバスの中にて、

『さわさわ』

「ぎゃっ」

寿子は痴漢に遭った。

痴漢に遭った寿子は、今年で八十二歳になる。

その顔は使い古した雑巾のようにシワシワで、体の方も、胸は垂れまくり、臀部も垂れまくりである。

その為に痴漢とも最早無縁だったからか、痴漢に遭って少し嬉しいらしい。

痴漢は、寿子の垂れ下がった臀部を鷲掴みにしながら、小さな声で寿子の耳元に囁いた。

「垂れまくりだねえお婆ちゃん」

寿子はちよつとムツときた。

「若い頃はねえ、若い頃はねえ」

憤慨だと言わんばかりに、痴漢を睨み付ける寿子。

すると痴漢は、寿子が思っているよりもずっと若く、小学五年生くらいの男の子だった為、寿子は思わず感嘆の表情を浮かべた。

「じゃあ魔法で若返らせてあげよう」

そう言つと痴漢は、臀部を触る速度を猛烈にあげた。

「あへえ。あへえ」

それに対して、寿子は興奮した。

するとどうだろう。寿子はみるみる内に若返り、胸は張りを取り戻し、臀部は張りを取り戻し、顔からシワが消滅し、寿子はまるで、二十代後半の美女に姿を変えてしまったのだ。

するとどうだろう。寿子の喘ぎもそれに合わせてか、

「あん。あん。あん。あん」に変わったのだ。

するとどうだろう。その寿子の喘ぎに誘われてか、まるでエサにたかる豚のように、大勢の乗客が寿子の体のありとあらゆる所を触ったり、男の大事な肉棒を寿子の服を剥いで、押し付けたり、寿子の口の中へと、ぶち込んだりしてきたのだ。

するとどうだろう。寿子は恥ずかしさと、もう諦めていた刺激を与えられて、数十年か振りに快感によって致してしまったのだ。

快感の余韻に浸り、全裸で床に堕ちる寿子。それでも寿子を貪る、豚な乗客達を捌けさせた最初の痴漢は、寿子をお買い得商品を見る目で見た。

そして薄ら笑いを浮かべながら、こう一人呟いた。

「現在では老人など何の役にも立ちはしない。だから私が若返らせて、世の中の変態どもに売り払うというこの計画。素晴らしいと思わないか寿子さん。リサイクルしてやろうと言うことさ」

言い終えると、痴漢は着ているジャージのポケットから、直径約三センチ程の丸く赤いカプセルを取り出して、放心状態の寿子のお腹辺りに向けて落とした。

するとどうだろう。寿子は数秒間、体を赤く点滅したかと思うと、一瞬にして姿を消してしまったのだ。

「寿子さん、ゲットだぜ。…なんてね」

数分後。バスに乗っていた乗客全員が、同じバス停に降りた。

更に数分後。あの痴漢はカプセルを見つめながら、無表情でこう言った。

「ありがとう、寿子さん。貴女はとても『上質』なお婆ちゃんだっ  
た」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7213e/>

---

リサイクルおばあちゃん。

2010年10月21日21時33分発行